



JAC北九だより

No.86 (平成30年 第4号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部
 支部長 関口 興洋
 事務局: 行橋市東泉3-18-10
 竹本 正幸方
 TEL-FAX 自宅 0930-28-9611
 携帯 090-6739-9251
 編集人: 事務局(森 義雄)
 印刷: 山口県山口市水の上町2-25
 内 藤 製 本 所

10月21日(日) 第2回 榎有恒碑前祭のご案内 支部長 関口興洋



風頭(かざがしら)山頂にある「榎有恒」来山碑

◆◆ 榎有恒碑前祭 ◆◆

会員の皆さま、ぜひご参加ください!

主催:公益社団法人 日本山岳会北九州支部

1. 期日:平成30年10月21日(日)
2. 場所:門司区・風師山(風頭)「榎有恒記念碑前」
3. 集合:9合目駐車場 午前9時30分
 駐車場から徒歩で風頭へ(約15分~20分)
4. スケジュール
 (1)記念式典 午前10時~11時
 式次第:支部長あいさつ、来賓あいさつ、
 献花・献歌・記念撮影
 (2)午餐会 午後零時~午後2時
 会場:門司倶楽部(TEL:093-331-2331)
 会費:5,000円
 (3)記念講演
 会場:門司倶楽部(午餐会終了後、引き続き拝聴)
 時間:午後2時30分~午後4時
 講師:元日本山岳会副会長 芳賀孝郎氏(会員番号:
 4637永年会員)
 演題:主たるテーマ
 (i) 日本山岳会に入会した当時のこと、山岳会の
 雰囲気とジョン・ラスキンについて
 紹介者加藤泰安との関係について
 (ii) 映画「マナスルに立つ」の題名について、ア
 ルバータ峰の登頂報告
 (iii) 1957年英国山岳会100周年祝会に出席して
 (iv) 榎さんのユーモアについて
5. その他 雨天の場合は風師山での行事は中止し、
 記念式典と午餐会を門司倶楽部で行う。
 その場合のタイム・スケジュールは次の集合
 時刻以外は変更なく上記のとおりで実施。

- ・集合時刻:午前11時30分
- ・集合場所:門司倶楽部2Fロビー
 雨天中止の場合は、前日夕刻のNHKの天気
 予報にもとづき決定し参加者に電話・メール
 などで連絡します。

6. 参加申し込み先

北九州支部事務局(竹本正幸)

電話・Fax:0930-28-9611

携帯:090-6739-9251

メール:takemoto.masayuki@white.plalane.jp

7. 申し込み期限 平成30年10月10日(水)

参加者把握のため、できる限り早めの申し込み
 をお願いします

(追記) 芳賀孝郎氏の略歴

1934年(昭和9年)8月9日札幌生まれ(84歳)

1958年(昭和33年)学習院大学政経学部卒業

1958年(昭和33年)日本山岳会入会、チョゴリザ
 登山

1959年(昭和34年)(株)ハガスキー入社 東京勤務

1971年(昭和46年)(株)ハガスキー取締役社長

1990年(平成2年)チョ・オユー 登山

1996年(平成8年)アルバータ登山

2001年(平成13年)日本山岳会副会長

2007年(平成19年)日本山岳会永年会員(No.4637)

2011年(平成23年)札幌に移住、現在に至る

◆◆臨時小倉サロン開催のご案内◆◆

榎有恒碑前祭に出席される森武昭前会長と記
 念講演の講師として札幌より来訪される芳賀孝
 郎元副会長ご夫妻歓迎のサロンを下記の通り開
 催いたします。昼間の行事に参加できなかった
 会員・支部友の方々にも出席していただきたく、
 ご案内申し上げます。

期日:平成30年10月21日(日)午後6時~8時

場所:「コール天」小倉北区魚町1-2-23

桧山ビル1F(奥の洋室)TEL:093-522-0565

参加費:3,000円(2時間、アルコール込み)

参加申し込み先:北九州支部事務局(竹本正幸)

上記6項参照

申し込み期限:平成30年10月10日(水)

8月11日(祝) 山の日
「故郷の山に登ろう」家族登山
実行委員長 14876 池田智彦



風頭(かざがしら)山頂に勢揃い

「山の日」制定を記念して実施した家族登山はブレ山行を含めて今年で5回目となる。実行委員会を立ち上げ、詳細について打ち合わせを行い、門司区役所・毎日新聞社に広報依頼を行ったが7月の豪雨による矢筈山登山道のガケ崩れで計画変更。風師山～矢筈山を風師山のみとし、行事内容はそのままの登山となった。毎日新聞社の広報は何とか修正してもらったが門司区役所は間に合わず、申込者に説明して参加依頼を行う。申込みは、Fax、電話、葉書等で私あて(池田宅)になっていたが、団体等の申込みは丹下会員宅に届き丹下会員には大変お世話になりました。

11日JR門司港駅午前8時45分に集合し、一般53人、会員37人の受付、パンフレット、ウチワ配布、関口支部長のあいさつの後に諸注意。班別1班～4班に分けて班長、会員を振り分けして、塩アメを配布し午前9時5分に門司港駅広場から旧九州鉄道記念館の近道を歩いて出発。

参加者は、90人(子供12人)年令7歳～85歳。清滝公園入口で小休止。水分補給し一般道路を登る。清滝公園上の藤棚付近でトイレ休憩し一般道を喫茶水月前、直木賞作家故佐木隆三氏の旧宅前を通り三角山登山口上の木陰で小休止。水分、塩分補給を行い歩を進め紅葉の名所「もみじ谷」入口に到着。班別の隊列のみだれを注意し出発。

やがて車道の終点に10時30分に到着。輸送班関口支部長車で搬入のアイスキャンデー100本を参加者全員に配布。毎年行う行事で子供達にとっては一番人気となっている。10時45分に車道終点駐車場を出発し登山路を風師山(風頭山)へと向かう。途中の山道、頂上下の広場は、前日から風師山早朝登山会会長の菱田哲郎氏による整備できれいに草刈りがしてあり、たいへん頭の下がる思いで感謝申し上げ

ます。有難うございました。

午前11時風頭山頂(364.3m)到着。関門海峡等360°絶景を眺めながら昼食。小林会員、塚本会員による日除けテント、頂上下にシートがあり大変有難い配慮に感謝申し上げます。昼食後に関口支部長による榎有恒元日本山岳会会長の記念碑の説明、丹下会員による風師山一帯が淡水湖で後に海となり、その後隆起して山となった説明がありました。

風師頂上を午後零時に出発し、駐車場に午後零時20分に到着。ここで子供達全員による恒例のスイカ割、前日より購入したスイカ4個をクーラーで冷やし小林会員の車で運搬し、木陰を利用してシートを敷きスイカ2個を置いて5分程度はなれた所から目隠しでスイカの前でササ竹で割る。子供達にとって大変楽しい行事である。終了後、菱田哲夫会長(早朝登山会)による煙の大砲(ダンボール箱片方に穴をあけ、中に丸玉火薬で箱をたたくと大きな煙の輪が出る)子供達に大変喜ばれた。

最後にストラップ、ボールペン、子供たちにニコニコマークシール、ガムを配布し毎日新聞社勤務の松田会員提供のTシャツ40枚争奪ジャンケン大会を行い山でのすべての行事終了。関口支部長あいさつ後駐車場午後1時下山開始。このころから私の体調異変が起こる。途中で下半身がつり始め動けなくなる。清家会員に即効にきく薬をいただき何とか歩けるようになり「もみじ谷」入口付近で小休止。

200mくらい歩いた所でお腹が痛くなり林の中に飛び込む。近道を下り清滝公園藤棚で皆と合流。車道を下り門司区役所東側入口に午後2時到着。解散式を終了後やっと自分の責任を果たした気持ちが緩み、また腹痛。区役所に飛び込み何とか治まる。

小林会員ご迷惑おかけしました。

関口支部長はじめ多くの会員の皆さまのお蔭でケガもなく、無事「山の日」の行事が終了したことを感謝申し上げます。

- 参加者：関口支部長(総括)、池田智彦(実行委員長)、
- サブリーダー：馬場、竹本、赤瀬、三浦、塚本、小林、
- 会計：縄田、
- 受付：丹下香代子、奥田、立石、中畑、
- 救護班：馬場、森本、輸送班：関口、小林
- 1班：17人丹下、原、松本、大谷、安部
- 2班：15人磯野、奥田、中畑、山口
- 3班：17人縄手、井上、山中
- 4班：10人清家、立石、平田、宮原、宇都宮

7月21日～22日 北海道支部主管 第34回全国支部懇談会報告 14852 竹本正幸



交流登山Bコース(黒岳)に参加の皆さん

7月21日～22日に北海道層雲峡温泉「層雲閣グランドホテル」で第34回全国支部懇談会が開催された。日本山岳会北海道支部主管で全国の27の支部から156人と北海道支部32人の188人が集まる。北九州支部からは、11人が参加しました。

21日(土)

午後3時より、北海道は今年、明治2年の命名から150年の記念すべき年によるこそおいで下さいました。西山泰正北海道支部長の歓迎あいさつ。

現在の会員は168人、100人近い会員会友も含めて250人を超える会員を有し、支部活動報告が紹介された。

次に小林政志日本山岳会会長のあいさつ、続いて「母なる大地、大雪山に魅せられて～その魅力を全世界に～」と題して山岳写真家 層雲峡・大雪山写真ミュージアム館長の市根井孝悦さんの記念講演。

高校3年の時に大雪山を訪れ素晴らしい景観に出合ったことが大雪山と深く、長く関わるきっかけとなった。写真を撮るようになったのは、高校教師をしているときに大雪山のお花の素晴らしさをいくら話しても生徒にはなかなか伝わらない。自分で教材用の写真を撮りに行くようになった。山と渓谷社から写真集を出版している。7年かけて日高の山を撮り続け、また大雪山に向かい合ったとき、大雪山に対する思いがさらに強まった。午後6時より懇親会に移り、佐藤芳治上川町長の来賓あいさつに続き重廣恒夫日本山岳会副会長の乾杯で宴会が始まる。

上川町在住の井沢家三代世によるムックリの演奏やアイヌ民族舞踊が披露された。

あちこちで和気あいあいの酒を酌み交わし、あっという間に時間が過ぎた。

最後に、渡邊雄二栃木支部長による次回全国支部懇談会の紹介と参加呼びかけがされ、お開きとなる。

次回は、平成31年5月25日～26日栃木支部主管で奥日光・光徳温泉「日光アストリアホテル」で開催される。希望者は二次会宴会場に移動してさらに懇親を深めた。

22日交流登山：Aコース 銀泉台～赤岳～白雲分岐～北海岳～黒岳の縦走に6人参加。

(竹本正幸、竹本加代子、縄手修、歳弘逸郎、奥田スマ子、中畑智子)

Bコース 黒岳往復に5人参加。

(関口興洋、伊藤久次郎、原広美、井上禮子、花田拓二)

記念山行 北海道黒岳登山

11990

原広美

●コースタイム：ロープウェイ7合目登山口9：45～黒岳山頂11：50～石室12：30

7月22日北九州支部5人黒岳登山に参加しました。早朝から雨、でも昼ごろには晴れるとのことなので1時間遅れてホテルからバスに乗りました。私はロープウェイ利用のBコースを選択、大きな岩の間を縫うように高度を上げていく。エゾシカ エゾリス、キタキツネの3グループが抜きつ抜かれつしながらワイワイ言いながら楽しく山頂を目指す。

午前10時ごろ、雨は上がって青い空と黄色のチシマキンバイソウの群落やウコンウツギ、ヒョウタンボク、チシマフウコ、ハクサンチドリ、クロユリ等足が止まる。流石北海道。稜線に出る少し前植田惇慈さんの遭難碑があり黙祷をする。またすぐ近くに若くして遭難した谷口ケイさんの碑がありそっと手をあわせる。先に登頂したチームが折り返してきた。山頂はもうすぐよと励ましてくれる。

やっと山頂に到着。風が強くてゆっくりできない。リーダーが目的の桂月岳は時間的に無理なので黒岳石室まで行きましょうとのこと。左右にはキバナシヤクナゲ正面には雪田が残っている北海岳や北鎮岳を正面に雄大な北海道の山々を見ながら石室に向かう。

目的地に着き強風を避けて昼食。30分の休憩後、元来た道を下山といっても黒岳山頂まで登っていく。

数人の人たちからコマクサがあったとのお話を耳にしたので探しながらまた撮影に黒岳山頂まで時間がかかった。私たちは夏の北海道を楽しむことにわがままいっぱいでしたが、お世話をしてくださった北海道支部のリーダーは体力と時間との戦いで大変だったことと思います。下山のときはリスさんチームやキツネさんチームがバラバラになり、日本山岳会の良い交流になりました。

月例山行 6月2日(土)~3日(日) 九重坊がつるテント泊



ミヤマキリシマ咲きほこる登山道で

●コースタイム：

1日目：長者原9:40~雨ヶ池11:10~坊がつる
12:10/12:55~三俣山14:20~坊がつる 16:20
2日目：坊がつる5:25~大戸越6:15/6:25~平治岳
6:50~大戸越7:40~北大船8:39~段原8:47~五合目
展望台9:14~坊がつる(昼食・テント撤収)10:00/1
1:20~長者原13:38

ミヤマキリシマ咲きほこる

15138 縄田正芳

6月2日(土)

九州南部・北部とすでに梅雨入りしていましたが2日は幸いにして上々の天気。気象庁は絶好の洗濯日和と盛んに発表していましたがわれわれにとってはまさに絶好の登山日和でした。ミヤマキリシマの季節でありまた翌6月3日は大船山での山開きということで、九重一帯の登山口の駐車場はたいへんな混雑状況でした。

午前9時前に集合場所の長者原に到着しましたが駐車場所を確保するのにひと苦労しました。他のメンバーも同様に12人全員が集まり食料、テントなど共同装備を振り分けて長者原を出発したのは午前9時40分になっていました。

湿原を横切り雨ヶ池越えの山道に入りました。広葉樹に囲まれ若葉が風にそよぎ木漏れ日がやさしくそそぐ気持ちの良い道です。自然観察路と言われ、ところどころに木々の名札が掛けられており歩く道すがらいろいろと勉強になりました。また林の中をアサギマダラが1頭ふわりふわりと優雅に舞っているのを見かけましたが高校の夏、この道で補虫網を担いでチョウを追いながら汗だくで坊がつるへと歩

いたことなど懐かしく思い出しました。雨ヶ池でひと休み。付近にはミヤマキリシマの群落があり満開の花の中、多くの登山者が休息をとりながら花を楽しんでいました。

しばらく歩くと山頂付近がピンクに染まった平治岳や大船山が見えるようになり、坊がつるももうすぐという感じとなり足取りも自然と急ぎ足になりました。三俣山の灌木やカヤのすそ野を下り坊がつるの湿原へ。遠くに見えるキャンプ場はすでに山開きを待つ人やミヤマキリシマ観賞の登山者の黄色や青、赤など色とりどりのテントがいっぱい張られていました。

正午、キャンプ場着。さっそくテントの設営。そして昼食。夕食まで時間があるので三俣山往復組と留守番組に分かれて行動。三俣組帰還後5時ころより夕食の準備に入りました。すき焼きということでお腹はすでに期待でいっぱいです。鍋奉行の差配の元、いろいろな具材を放り込みながら調理。味もなかなかのもの。わいわい、がやがや楽しく作りながら食べながらそして飲み語り会いました。

事前に食材調達、調理道具の準備等されたメンバーの皆さんたいへんありがとうございました。午後7時半過ぎに明日のミヤマキリシマを楽しみに各自テントへ帰りました。だいぶ冷え込んできておりテントは夜露でしっとりと濡れていました。

平治岳のミヤマキリシマを満喫

15174 縄手修

6月3日(日)

2日目 坊がつるにテントを置いて平治岳(1643m)を目指した。大戸越から平治岳を巡りミヤマキリシマを満喫し、戻るとき下山道脇に白色のミヤマキリシマが咲いていた。

大戸越から北大船山、大船山に向かう予定だったが大船山山頂付近にはすでに人だかりが見えたので段原から坊がつるに下りることにした。

坊がつるに下山後昼食を取り、テントを撤収してスガモリ越しコースを長者原へ下山し帰路についた。

参加された会員の皆さん、お疲れ様でした。

参加者：12人

会員：CL 大谷恵美子、SL 塚本久嘉、
竹本正幸、竹本加代子、赤瀬榮吉、縄田正芳、
縄手修、歳弘逸郎、奥田スマ子、三浦利夫、
中畑智子、

準会員：藤原玲子

月例山行 7月14日～16日テント泊 大崩(三里河原・お姫山・ 五葉岳・夏木山)を歩く



ひんやりとした三里河原大滝の前で

コースタイム：

7/14：大崩登山口13:00～大崩山荘13:25～湧塚尾根分岐14:05～喜平越谷出合15:20～吐野17:00

7/15：吐野7:00～1405[㍿]ピーク8:20～1393[㍿]ピーク8:45～乙女山10:00～お姫山10:30～五葉岳(軽食)11:00～夏木山12:40～黒岩滝13:50～瀬戸口谷～吐野14:55

7/16：吐野7:00～大滝7:35(ソーメンタイム)～吐野(軽食、テント撤収)～吐野10:00～喜平越谷分岐11:15～湧塚尾根分岐11:55～大崩山荘12:25～大崩登山口13:00

以前より行きたかった三里河原 北九501 安達美保

今年4月に支部友として入会し、2度目の山行となる三里河原テント泊です。

三里河原は以前より行きたかった場所ですが、重い荷物を背負って登れるのかとても心配していました。おまけに当日はお天気がとてもよく、それとともに気温も上がり、登山口では34°にもなっていました。ますます不安でいっぱいです。

途中は樹林帯が続き、無風の中を歩き続けました。すごく汗をかきながら登って行きます。さすがベテランの皆さん。暑さも何のその・・・という感じで無事に三里河原に到着です。食事は河原で調理して食べます。ワイワイと外で食べるご飯は格別に美味しかった。そして、皆さんのザックの中から、ビールやワイン、きゅうりのお漬物等々・・・沢山の差し入れが出てきたことには本当に驚きました。あの暑さの中、背負える力が羨ましい。

今回はとても楽しくて、少し自信がついた山行となりました。ご一緒していただいた皆様、ありがとうございました。

乙女山(1517[㍿])・お姫山(1550[㍿]) ・五葉岳(1570[㍿])・夏木山(1386[㍿]) 15710 町元里香

15日(日)

夜中、日付が変わる頃から急に冷え始めて寝袋にもぐり込む。沢の音と小鳥のさえずりで目が覚めた。

大きな山の自然を完全に貸し切り状態にした別天地での2日目の始まり。縄手さんに入れていただいた美味しいコーヒーでパンの朝食を済ませ、午前7時に出発。吐野から、まずは1405[㍿]、次に1393[㍿]のピークを越え、最初の目的地の乙女山を目指す。

急登の尾根で汗を流しながら進むと、時おり感動的な大崩山岸壁が目飛び込んでくる。乙女山への直登の手前で馬酔木の群生に行く手を阻まれたが、どうにか進むことができた。山頂から見える鹿納坊主の穂先に圧倒された。お姫山へ進み、頂上で写真撮影。360°見渡す限り山々の絶景。樹林帯を進み、後半の五葉岳、夏木山をめざす。最後の急登を一気に登ると、見たことのない、まるで仙人が降りて来そうな幻想的な景色が待っていた。五葉岳山頂で小休止し、軽食をとって出発。南峰に荷物をデポし、夏木山山頂におかう。山頂に掛けられていた温度計が32°を超えていた。とにかく暑い。

南峰に戻り、黒岩滝へと降りる。途中の水場で喉を潤した湧水の美味しさは忘れられない。歩き易い所を探しながら渡渉を繰り返して、瀬戸口谷を下る。吐野に到着。遅めの昼食になった三里河原の水で冷たく冷やしたソーメンの味は格別だった。蝉の声、鳥のさえずり、流れる水の音を聞きながら、河原でおしゃべり。夕食の時間まで贅沢な時を過ごす。かけがえのないひと時と体験を本当に有り難うございました。

マイナスイオンたっぷりの三里河原散策 A0078 藤原玲子

16日(月)

今日は(山行3日目)三里河原散策で、吐野～モチダ谷～大滝までのルート歩きます。

最初は、美しい祝子川の清流を眺めながらの歩きでしたが途中から、対岸へ渡渉しなければなりません。水量が少なく、穏やかな流れの所を探し、飛び石を利用して渡るのですが、面白くもあり緊張しました。上流に進んで行くと、コバルトブルーの巨大なおう穴が幾つかあります。美しく特徴的な地形と豊富な水、自然が作り出した光景に圧倒されながら午前7時35分、大滝の滝つぼに到着。涼しくて、マイナスイオンたっぷりで癒されます。

ソーメンを湯がいて、滝つぼで冷たく冷やして食べました。のどが冷たく、火照った体に最高で

とても美味しかった。一般的な大崩山のイメージは、厳しい急登と険しい岩場とされていますが三里河原の美しい渓谷沿いのルートも大崩山を満喫するには絶対外せないコースだと思いました。また来る機会がありましたら、今度は沢歩きで、ジャブジャブと川の中を歩きたいと思いました。

参加者 8人
会員：塚本久嘉(CL)、縄手修(SL)、竹本加代子、町元里香、中畑智子、花田拓二
準会員：藤原玲子、支部友：安達美保

**8月5日(日) 古処山(860^{トル})～屏山(927^{トル})
ニシキキンカメムシ・オオキツネノカミソリ観賞
14916 赤瀬榮吉**

匹)群でとまっているキンカメムシを発見。手元に寄せ見ても全く動かず、群れで見たのは初めてで感動しました。自然林に覆われた稜線をさらに進み午後零時26分屏山に着く。山頂は団体さんでにぎわっていました。木陰を見つけ昼食タイム。午後1時6分屏山を立ちツゲの原生林分岐からエスケープルートを下り、奥の院ルートに出会う。ここでザックをおろし大きな岩場を30^{トル}ほど登り奥の院をピストンする。そこは大きな岩で挟まれた奥行きのある空間で、岩場から漂う冷気が気持ち良く寒いくらいでした。



真夏の暑さにもげず登った屏山山頂

ここから、奥の院ルートの急な下りを35分程で管理棟に着き下山時刻を記入、アイスクリームを食べ小休止。汗が引きました。

当初は、朝倉市側の秋月登山口から登る計画でしたが、先般の豪雨で国道322号、迂回路の国道50号も通行止め。嘉麻市側の「古処山キャンプ場遊人の杜」に変更し登山しました。

午後2時45分登山者用駐車場に着く。ここで高島会員と会い解散しました。

この日は、「古処山探検隊」(主催：嘉穂三山愛会)のイベントで、高島会員は「嘉麻トレッキング倶楽部」の顧問で多くの会員をつれて集まっていました。

今回の登山の目玉である、ニシキキンカメムシ、キツネノカミソリと時期がピッタリ合い満足の行く山行でした。参加者の皆様、N支部友お疲れ様でした。所要時間：5時間45分

高島会員(顧問)は、この倶楽部の参加者を引率するため登山口で別れ、参加者は4人となりました。午前9時、駐車場で高島会員と一緒に来ていた、地元N支部友(女性もう1人)と偶然出会い帯同し登ることにしました。

参加者：4人
会員：赤瀬榮吉(CL)、馬場基介、町元里香、小林英世

管理棟で登山届けに記帳、ログハウスを過ぎるとすぐに登山口、豪雨で荒れた急な登山道を登り午前9時55分八丁越分岐の林道に出会う。この林道を終点まで進みザックをおろす。

その先にはキツネノカミソリが群生で満開に咲きほこり美しく感動しました。



写真はニシキキンカメムシ

稜線に戻りキンカメムシを探しながらゆっくり歩き数匹のキンカメムシを見つけ午前10時45分古処山山頂に着いた。一休みし、山頂直下の磨崖仏を見に行った。山頂に戻り南斜面を少し下り、国の特別天然記念「ツゲの原始林」に入る。しばらく進むと頭上の小さな葉っぱに10匹(表6匹、裏4

月例山行 6月10日(日)
平尾台 岩登り教室「基礎を学ぶ」
 北九505 城戸剛



園川講師の室内講義を終えての参加者たち

今回初めて会の「岩登り教室」に参加しました。会の山行自体も初参加でした。

当初は朝から茶ヶ床に集合して唐手岩周辺で岩登りトレーニングのはずが、前日に雨天予報のため屋内にてロープワーク講習に変更との連絡が入る。

ロープの結び方が苦手な私にはちょうどよかったかもしれない。基本となる結び方をほんやりと覚え

ることができました。雨の予報だったが降らない感じもあって昼から実際に岩場で講習することになりました。

「ガーン」今回これが私にとって一番のハプニングとなった。屋内講習だけと思っていたのでクライミングシューズどころかトレッキングシューズも持って来ていなかった。しかし日頃のズボラな性格が功を奏し車に積んだままのトレイルランシューズがあった。お陰でサンダルで参加せずに済んだ。(笑)

無事に岩場での講習を受けることもでき、講師の先生や会の先輩たちからいろいろ学べ、有意義な一日となりました。今まで我流でやってきましたが、会に参加してまた基礎から勉強していきたいと思えます。

これからも自己紹介の時は起立します。(笑)

参加者21人 講師：園川陽造顧問

会員：板倉健一、大内喜代子、竹本正幸、竹本加代子、森本信子、縄手修、歳弘逸郎、塚本久嘉、町元里香、田中貴大、中畑智子、準会員：太郎良嘉親

支部友：和田敦子、菅野正道、金子聡、城戸剛、松本重裕、堤庸子、安達美保、長尾由紀

月例山行 6月10日(日)
森林保全巡視員
平尾台一斉巡視(花観察)
 13533 磯野文雄

6月10日(日)午前10時、茶ヶ床園地を起点に、森林保全巡視員(以下「巡視員」)が一斉巡視を行いました。当日は、午後から雨天との予報でしたので、急ぎよ、出発地を茶ヶ床園地に変更し、同地から出発しました。

中峠を経由して広谷湿原まで、植物観察会しながら行きました。オカトラノオ、ウツボグサ、タカサゴソウ、ヒメジョオン、ハルシオン、カキラン、ミヤコグサ、ヒメウツギなどを観察しながら、広谷湿原に着きました。広谷湿原では、ノハナショウブ、モウセンゴケなど湿原特有の植物を観察して、茶ヶ床園地に戻り、全員が揃って昼食をとりました。

その後、本日の研修に関するおさらい会を開催して解散しました。

今回も、立花山グリーンガイドの会の湖尻浩子先生に同行していただき、植物に関して詳細な説明を聞きながらの有意義な研修となりました。



花散策でのカキラン

参加者7人

会員：磯野文雄(CL)・井上禮子(SL)・馬場基介、池田智彦、榊俊一、三宅明子
 立花山グリーンガイドの会：湖尻浩子

北海道全国支部懇記念山行プラス個人山行

7月22日(日)～27日(金) 大雪山・幌尻岳・雌阿寒岳・斜里岳・羅臼岳
平均年齢70歳「はるかなる大地5座を巡る」

●コースタイム：

7/22 層雲閣グランドホテル6:00～銀泉台登山口
6:50～コマクサ平8:44～赤岳10:05/10:22～北海岳
11:50/12:00～黒岳石室13:42/14:02～黒岳14:27～
リフト・ロープウェイ～ホテル16:30/16:40<車
移動>～土幌温泉18:50
7/23 土幌温泉5:30<車移動>～とよめか山荘9:
30/9:45～<シャトルバス>第2ゲート10:27/10:45
～北電取水施設13:54～渡渉開始14:40～幌尻山荘
16:40
7/24 幌尻山荘3:00～命の水4:57～幌尻岳7:15/7:
30～命の水8:55～幌尻山荘10:15/11:00<渡渉開始
>北電取水施設14:00/14:30～第2ゲート16:40/17:
00<シャトルバス>とよめか山荘17:50
7/25 とよめか山荘4:30<車移動>～野中温泉8:
30～雌阿寒登山口9:09～雌阿寒岳11:45/12:01<オ
ンネットコース>オンネット登山口14:30～野中
温泉15:32
7/26 野中温泉4:45<車移動>～清岳荘(斜里岳
登山口)7:09/7:35～下二股8:40～上二股9:28/9:40
～馬の背11:05/11:23～斜里岳11:42/11:55～馬の
背12:09/12:30～熊見峠13:37～下二股14:30～清岳
荘15:22<車移動>～木下小屋19:15
7/27 木下小屋(岩尾別登山口)4:26～弥三吉水
6:15～銀冷水7:32～羅臼平ら8:30/8:50～羅臼岳10:
12/10:40～羅臼平11:35～弥三吉水14:00～木下小
屋15:33～<車移動>しれとこ村泊

である。明日の額平川の水位は大丈夫だろうかと気にかかると。銀泉台へ向かう登山バスも2台中1台がオーバーヒートでエンスト。銀泉台を出発するころには小雨になる。小雨も上がったたり降りだしたり、間もなく暑さで雨具の上下を脱ぐ。この先雨具の上のみ着用。

第1、第2と花園には雪渓があり、様々な花が迎えてくれる。今日は花の写真は撮らないと決めていた。パーティの歩みを乱してはいけない。後で思った「いつか又来よう！」

Aコース6班のリーダー北海道支部の助田梨枝子さんは北九州支部の会友である。にぎやかすぎる北九6人のメンバーをまとめてリードしていただいた。山のこと、会友の経緯など話していただきながら後に続いた。

赤岳で記念写真を撮り、それから進む稜線は、風が強くと雨具のフードを掴みストックを支えに前傾姿勢で踏ん張る。風がフーツと止まるとよろけてしまう。風との戦いは北海岳まで続き忘れられない思い出となる。リーダーの助田さんが出発前に毛糸の帽子を持ってきたかと聞かれた意味が良く分かった。

風は体温を奪うので寒い。赤石川の渡渉はスパッツを付けていたので水が入る事はなかった。メンバー2人は登山靴を脱いで渡る。足が痛かったとのことであった。黒岳石室で休憩を取り、黒岳では谷口ケイさん(故人)を忍び、下山はリフトとロープウェイを乗り継ぎホテルには予定通り午後4時30分到着。慌ただしく次の幌尻登山に向けて宿泊地土幌温泉へと車を走らせた。

7月22日(日) 黒岳(1984㍍)

強風とお花と雪渓の大雪山(黒岳縦走)

14853 竹本加代子

全国支部懇に参加、21日に懇親会、22日は交流登山がA・B・Cコースに分かれて行われた。

われわれ6人はAコース(銀泉台～黒岳縦走)。その記録ですが、個人山行北海道遠征の一端として報告します。北海道での全国支部懇が絶好のチャンスと幌尻岳の計画をまず立てる。心の隅に1歳でも若いうちにといいながら踏み切れずにいた。ヒグマの存在も怖かったが合わせて5座を巡る山旅のスタートである。渡渉のある幌尻岳を考える時、天気予報から目を離せない毎日が続いていた。

一座目の黒岳縦走登山は層雲峠を出発そうそう雨

7月23日(月)～24日(火)幌尻岳(2052㍍)

下山途中、事故者を手助け！

15616 奥田スマ子



苦勞して登った幌尻岳山頂

1日目(23日)

とよめか山荘前から出ている登山口行きのシャトルバスに乗り込む。乗客は私たちだけだった。「昨日まで天気が悪かったですけど、ようやく天気になりました。」とバスの運転手さん。天候によっては新冠コースも視野に考えていたけれども、今日は額平川を渡渉しながらコース途中の幌尻山荘(避難小屋)まで5時間の行程である。登山口(第2ゲート)ではすでに下山して帰りのバスを待っている人が10人ほどいた。聞くと額平川の水量は大丈夫のようであった。

登山口をスタートしてまもなく、林道で多量のクマの糞と爪痕を発見してクマの存在を身近に感じた。クマの生息域に私たちが入り込んでいるのか、クマが林道まで下りてきているのか、どちらか判らないけれどもクマとの遭遇は避けたい。鈴と笛を鳴らして歩く。林道は降雨被害で所々崩れ、融雪で橋が流されていた所は川に入り対岸へ渡った。そして、登山口から4時間弱で渡渉地点に着いた。私は渡渉の経験がなかったけれども、内住峡で事前訓練に参加していたのでほとんど不安を感じることは無かった。

沢靴に履き替え額平川の右岸から左岸へ、又右岸へと渡渉を繰り返した。流れを読んでリーダー竹本正幸さんの後に続いた。水流は見た目以上に強く、2カ所でロープを張って安全確保していただいた。



訓練の成果が表れた渡渉

何回渡渉を繰り返したでしょうか？

10数回、いや20回以上？、よく憶えていないが、2時間程渡渉を繰り返して今日の宿である幌尻山荘に到着した。

2日目(24日)

まだ暗い早朝に山小屋を出発。標高が上がるにつれて幌尻岳とは尾根続きの戸蔦別岳(1959m)が見えてきた。さらに進むと左に北カールを見ながら右斜面にはエゾツツジ、ツガザクラなどのお花畑がひろがる。この稜線に出た時、カール底にいる大きなヒグマを発見した。クマは人の存在を感じているのか無いのか、沢に沿ってゆっくり移動しながら餌を探しているようだった。山でクマを見たのはこの時が初めてである。森林限界を超えるとまもなくして山頂に着いた。ようやくの山頂。皆で握手を交わし喜びあった。

山頂は私たちと新冠コースから来た二人だけ。3

60°の展望。日高の峰々が連なりアイヌ語の「ポロ・ジリ(大きい・山)」を実感した。そして、この峰の連なりを心ゆくまで眺めていたいと思うけれども早々に下山開始する。

登ってきた急斜面を足早に下り、避難小屋に残していた荷物をリュックに詰め込んで下山口に向けて再び渡渉を開始した。途中で登って来ていた登山者から事故者がいるとの情報を得る。小屋に行き救助要請を行うとのこと。沢を下って行くと足を負傷して動けない男性(70代)がいた。声かけすると水と食料はあると言う。痛み止め内服薬と湿布、体の下に敷くマット等を提供する。

また熱中症にならぬようレジャーシートやラフンブキの大きな葉などで即席の屋根を造って日差しを遮り、少しでも身体的ダメージが軽減出来るよう、メンバー全員でできることを行った。救助ヘリの目印になるようにと誰かが黄色のザックカバーも提供して流木に取り付けた。そして、救助が来る旨伝えて彼と別れた。しばらく経って上空にヘリの音を聞いた時にはひと安心した。

往路は先の楽しみいっぱいでも長く感じないが、復路は沢靴を脱いでからの最後3時間余りの林道歩きは、疲れに加えてこれが北海道かと思われる猛暑に忍耐を強いられた。そして本日行動開始から13時間30分の行程で下山口に無事到着した。

ところで、負傷した男性は午前8時30分の帰りのバスを予約していたという。「下山して来なかったから、おかしいと思っていました。」とバスの運転手さん。登山計画に無理があったのではないだろうか。今回、私たちが無事下山できたことに感謝したい。きめ細かな計画書を作成していただいた竹本加代子さんはじめ、みなさまの支えに心から感謝します。

7月25日(水) 雌阿寒岳(1499m)
絶景づくしの大展望と
エメラルドブルーの火口湖
16163 中畑智子



とよめか山荘を出発し、野中温泉へ238㎞移動し雌阿寒岳登山口、素晴らしいお天気にめぐまれました。雌阿寒岳温泉コースからオンネトーコースへ。アカエゾマツの針葉樹林帯を歩き、ハイマツのトンネルを通りすぎると活火山らしい景観。ゴーゴーと唸って、噴煙をあげている火口は吸い込まれそうでした。火口の湖面はエメラルドブルーでとても綺麗でした。山頂では何も遮るものがなく、360°の大展望で阿寒富士、剣ヶ峰と周辺に広がる森が見え、どこを見ても絶景づくしの名峰でした。下りには、カタクリ、イワブクロ、ハクサンシャクナゲなどの花が咲いており、疲れが癒されて楽しい山行ができました。皆さんありがとうございました。

7月26日(木) 斜里岳(1547m)
斜里岳はアイヌ語で
オンネプリ(大きな山)
 15174 縄手修



苦勞して登った大きな山斜里岳

前日宿泊の野中温泉から斜里岳登山口の清岳荘まで約120㎞移動した。清里町川清岳荘から、一ノ沢の登山道は沢沿いを歩く。下二股で旧道コースと新道コースに分かれ、旧道コースを上がった。上二股までの間に滝があり、何度も渡渉を繰り返す、ロープを頼りに上がる場所もあった。徒渉は幌尻岳で十分に練習をしたので慣れていたはずだが急斜面ではスリルを味わった。上二股では携帯トイレブースが設置されていました。新道コースに合流し急斜面を登ると胸突き八丁から馬の背へ続き30分で斜里岳。山頂で知り合った地元清里町からの登山者の方に、オホーツク海、すそ野からのびやかに続く畑の風景が広がる清里町や斜里町、羅臼岳や阿寒岳の位置などを説明してもらった。

下山は上二股から左に曲がり新道コースを下りた。熊見峠から下二股でコースは合流。下山後羅臼岳登山口のある木下小屋へ約80㎞移動。北海道の山は簡単ではないなと感じた山行でした。

7月27日 羅臼岳(1661m)
北海道遠征の最後の山は
知床半島最高峰の羅臼岳
 15416 歳弘逸郎



達成感でいっぱい、羅臼岳山頂で万歳！！

7月27日、いよいよ北海道遠征最後の羅臼岳に登ります。全国支部懇談会山行の黒岳(大雪山系)を入れると今日で五座目です。黒岳から今日まで、移動と登山を繰り返す、いくらか疲れが残るものの木下小屋を午前4時30分定時に出発。事前に、小屋の管理人からクマ除けスプレーを借り使用講習を受け、使用することがないことを願い、羅臼岳を目指しました。

北海道の森林限界は1600mくらいと聞きました、目指す羅臼岳が1661mなら山頂まで樹林帯を登ることになります。涼しい樹林帯の登りと思っていましたが、今年はなんか変、黒岳登山以外、北海道とは思えない高温、晴天おまけに無風の中での登山となり、休憩を多めに取り約4時間で羅臼平へ到着。ここから山頂を見ると、山頂付近は大きな岩が積み重なったように見え、登頂まで約1時間を要します。

なだらかな樹林帯を30分で山頂直下、そして、ひと揺れ来れば崩れ落ちそうな岩の間を縫うように登り山頂到着。山頂からの展望は、雲の上に頭を出した国後島、昨日登った斜里岳、北に目をやれば知床半島の先端、水平線は薄曇りで見えなかったけどオホーツク海を眼下に見渡せる大展望でした。

山頂で眺望を楽しみながら、30分くらいの食事と休憩を取り下山開始、木下小屋を目指した道を戻る。登山口の木下小屋到着は午後3時33分、借りていた熊スプレーを一度も使用することなく返却。

木下小屋前で全員“やったぞー！”と声を合せて記念写真を撮り、ジジババの北海道遠征登山を完了しました。

参加者6人

会員：竹本正幸、竹本加代子、縄手修、
 歳弘逸郎、奥田スマ子、中畑智子

個人山行 6月27日(水)
利尻山(利尻富士：1721m)
最北の山は雨の中！！
 15387 森義雄



霧でかすむ山頂で万歳！！

6月26日から30日まで、北海道利尻山登山と礼文島の花鑑賞に行ってきました。

参加者は、森(CL)、大谷恵美子さん、ビジターの坂田啓子さん、岡村睦子さんの4人。

時期は6月下旬、北海道の最北利尻島、礼文島をめぐる花の旅が見ごろの季節です。。

26日午前7時45分宇部山口空港を出発しました。羽田空港、新千歳空港で乗り換え。目的地の利尻空港に着いたのは午後2時過ぎ。天気は曇り空、でも空港からは利尻山ははっきりと見えました。すそ野が広く、山が大きく見えます。明日登る山なのかと期待に心が躍ります。レンタカーを借りて、まずは、明日早朝から登る鷺泊コース登山口(利尻北麓野営場)への下見に向かい、登山口を確認しました。ちょうど、登山口では下山された登山者もいて、今日の登山は視界が良く、山頂からは景色が遠く北海道本土も見えたとか・・・。

時間もありますので、島内一周の観光です。花を見ながら、オタマリ沼、北のいつくしま弁天宮で観光、観光客も多いようです。

島内一周も終わり、民宿に到着し、宿の温泉に入浴。宿の温泉は、登山口近くの利尻富士温泉から湯を運ぶとか、食事をとりながら明日の行程を皆さんで確認し、早め目の就寝。

6/27(水)

深夜から雨となり、午前3時に起床した時は小降り。雨具を着用し、登山口に向かいます。午前4時に到着し、準備体操を行います。標高220mから山頂まで標高差1500m、往復約10時間の長い時間を要する登山の開始。雨で足元は悪いのですが、登山道は整備されています。はじめは緩やかな登山道が続きます。傾斜もないほぼ平坦な道です。その代わり、標高があがりません、歩いてても歩いててもなかなか私の腕時計の高度計があがりません。

途中5合目を過ぎて、時々視界が開けますがあい

にくの雨で遠くが見えませんが、近くの沢には雪渓が残っています。午前6時過ぎ6合目第1見晴台到着、雨風も強く早々に出発。花もほとんどなく、ひたすら前を向いて歩くのみ。途中に、トイレブースがあり、登山者にとっては助かります。

7時22分8合目長官山到着。少し遠くに利尻山の尾根が見えます。でも、快晴なら全景が見えるのかもしれない。下山する登山者も数人いましたが、途中の避難小屋に昨夜泊まったとか。休憩も雨の中では、長くとれませんので先を急ぎます。

午前8時10分やっと避難小屋に到着、このころには雨も本降りとなりかなり雨具の内側も汗と雨でびしょり。小屋の中で着替え、防寒対策、行動食を食べて休憩。

小屋には登山者もいますが、軽装で雨具も用意していない方もいます。

避難小屋から先は、急登が始まります。雨も激しく降りますがここまで来たのですから先は少し、頑張っけて登ります。足元は、ガレ場が続ぎ、整備された木道も流されています。足元に注意しながら、最後の直登を息も絶え絶え登ります。

9時40分雨の中、やっと山頂到着、社があり、参拝します。写真を撮りますが、霧ではっきり見えません。でも、登った満足感があり、全員でハイタッチ。帰路は、足元に注意しながら下ります。岩もあり、疲れもあり滑りそうです。長いながい下りを励ましあいながら歩き、午後2時10分登山口へ到着し、一礼をして安全に感謝！！

宿に帰り、温泉に浸かり、美味しい夕食を堪能しました。

【番外編】 熊がでるぞ！

今回の山行は、出発前予期せぬこととなりました。計画段階(2月頃)では、利尻島には熊がいないはずでしたが、6月になり「熊がでるぞ」との情報がありました。なんと、北海道本土から利尻島まで熊が30%を泳いで渡ったようです。よほど家族から嫌われたのか、いやになったのかわかりませんが、間違いなく足跡と監視モニターには映ったとのことでした。今回の山行には熊よけスプレーを持参しました。腰にぶら下げながら歩きましたが、すれ違ったツアー客や登山者は持っていなかったようです。あまり心配がないのか。もし、熊に襲われたらとずいぶん心配しましたが、私は逃げられると思いながら歩きました。たった1頭の熊のため大変な気苦労をしました。熊よけスプレーは、1本1万円で店で売っていました。8月には天皇陛下が来島されるとかで、クマはどうなったのか？

参加者4人

会員：森義雄、大谷恵美子

ビジター：坂田啓子、岡村睦子

同好会活動 ポレポレ会

(ポレポレとはスワヒリ語で「ゆっくり」を意味することば)

6月7日(木) 星生山(1762[㍎])
一面のミヤマキリシマを大満喫
北九507 堤庸子



ミヤマキリシマを見ながら登った星生山

6月のポレポレは、満開のミヤマキリシマを求めてくじゅうの星生山へ。梅雨の合間の晴天に恵まれて、集合場所へ向かう車窓から、ピンクに染まった山頂が見えた瞬間歓声があがる。牧ノ戸駐車場は平日にも関わらず既に満車。それぞれ少し離れて無事駐車させ、午前10時15分登山開始。

登りはじめるとすぐに濃い桃色のツクシウツギやシロドウダン、足元にはハルリンドウが出迎えてくれる。展望台からは雲海の由布岳とさらに近づいたピンクの斜面が美しい。沓掛山で記念撮影してはしごを降り、さまざまな種類のドウダンやウツギたちに心躍らせながら進むと、急に開けたその先は一面ピンクのミヤマキリシマのじゅうたんが、馬酔木のもえぎ色とコントラストをつくっている。扇ヶ鼻も、肥前ヶ城も、これから向かう星生山もピンク！ピンク！ピンク！西千里ヶ浜からの急登では登っては振り返り、登っては振り返り、360°どこを見たらよいのかわからないほど。そして岩場の隙間に可憐に咲くコケモモやイワカガミたちに癒される。

午後零時40分山頂到着。先に着いた皆さんに三俣山や平治岳を臨める火口側の特等席を確保していただいて昼食タイム。ミニトマトやパイナップルも美味しくいただきました。

昼食後は東側の岩場を注意深く降りる。少しガスが出てきて肌寒い。途中から肥前ヶ城方向に降りていく道が不明瞭になっており、ミヤマキリシマの間の踏み跡をなんとか抜けて久住分かれからの道へ合流。残念ながら肥前ヶ城へは柵で入れなくなりましたが、沢山の植物を教えていただき、豊かなくじゅうの花々を満喫できた一日でした。CL丹下さん有り難うございました。

参加者9人

会員：井上禮子、丹下洽、丹下香代子、
竹本加代子、森本信子、清家幸三、
支部友：宇都宮美智子、堤庸子、里耕三郎

7月19日(木)犬鳴山(359[㍎])【山口県】
干支の山・仁保の犬鳴山へ
14554 丹下香代子



滝を越えての犬鳴山山頂は暑かった

コースタイム：

山口県庁集合9:00～道の駅「仁保の郷」9:30～光明寺跡登山口10:00～犬鳴の滝10:15～犬鳴山頂10:50～光明寺登山口11:45～「帰郷庵」昼食12:00/13:05「源久寺」の「古代ハス」観賞～解散13:30

皆さんご存知でしたか、山口県にも「犬鳴山」がある事を！！・・・全く知らなかった私は興味津々。原会員に地図を見せていただき、滝の多い山だと知り、涼を求めて7月の山行となった。

家を午前7時出発、山口県庁午前9時集合。暑いので説明は後でと出発、「仁保の郷」で本日初参加のビジター2人の方と合流、目的地へと5台の車で移動。「自然道場ふれあい館」駐車場着。

日陰に入り本日のCL原会員とSL縄田会員より説明を聞き出発です。光明寺跡・登山口午前10時発。

周囲は樹々が多く川も流れ涼しい山道です。小さな橋を渡るとすぐ左に「山頭火」の句碑「分け入れば 水の音」とある、その通りの風景です。犬鳴川沿いを歩いていると、小さな滝が次々と・・・樹々や滝には名前を書いた看板がありとても分かりやすい。

「鉱脈試掘跡」の看板が、見ると暗くゴルジュになった場所で見え難い。少し坂を登ると正面に滝が見える、右に橋を渡り鉄柵のある急な階段を登ると「犬鳴の滝」展望台、落差20m以上、水量も多く一見の価値あり！！ホッと一息、小休止。

左へ急登、夫婦滝・曲水の滝、一登りで犬鳴山(359m)集合写真を撮り、下山路は東尾根経由、すごい急坂を注意しながら下ります。やっと登山口から一周、光明寺跡登山口着午前11時45分皆さん汗だくです。川の水で顔を洗う人・タオルで身体を拭く人・手を冷やす人、ホッと一息・・・クールダウン・・・5分で駐車場。移動して昼食です。

「帰郷庵」着正午。暑いので縄田さんの配慮で扇風機に当たり昼食が出来ました。「帰郷庵」は小説家「嘉村磯多生家」で使用料=1,000円・泊まる事も出来ます。食後は管理人の方の指導で、片足ダンスを音楽に合わせて踊り、楽し、一刻を、これ最高！！・・・身体も軽くなり「源久寺」へ古代ハスを觀賞に。「大賀ハス」は縄文遺跡発掘中に3粒の種を発見、その種を「大賀一郎博士」によって発芽、それで「大賀ハス」の名がついた。本当に美しいハスの花です。

午後1時30分ここで解散。皆さん猛暑の中お疲れさまでした。原さん縄田さんご苦労さまでした。「本日出会った珍しい花」=カラスビシャク・トンボソウ等

「本日出会った樹々」=ユリノキ・アオキ・エゴノキ・ケヤキ・イロハカエデ・オニグルミ等

参加者15人

会員：CL原広美、SL縄田正芳、伊藤久次郎、井上禮子、関口興洋、丹下洽、丹下香代子、大内喜代子、町元里香、
支部友：伊藤トモエ、松田幸恵、宇都宮美智子、里耕三郎、ピジター：市村澄江、長谷妙子

8月30日(木)姫島(矢筈岳226.6m)【大分県】 念願の一等三角点の山

13541 高島拓生

コースタイム：

姫島港 10:15～林道登山口 10:38/10:45～矢筈岳山頂 11:35/11:55～登山口 12:30～お食事処(もりえい)

豊前おこしかげに午前7時30分集合。久しぶりに国東半島の奇岩山峰の眺望を楽しみながら海岸線を走る。伊美港9時10分到着後、定員80人の姫島村営フェリーに乗り込み、20分ほどで姫島港に着く。参加者18人平均年齢70.4歳、CL里さん63歳、SL井上さん70歳。リーダーのあいさつと指示で登



初めての姫島登山

山開始。私は8年前に一等三角点研究会(本部・京都)に入会している関係で姫島・矢筈岳(明治22年一等三角点に選定)に是非登りたいとJAC北九だよりを読み早々に丹下会員に申込み、その日を楽しみにしていました。

85歳になり体力低下を感じるようになりましたが若きリーダーや初対面の方々や久しぶりに逢える会員の皆さまと一緒に登りたい一念でした。無事下山でき皆さまに感謝いたします。有難うございます！！

伊美港で関口支部長のあいさつ、特に10月21日風師山「榎有恒祭」について多数の会員・支部友に参加してもらいたいとの要請があった。丹下会員からは9月27日の秋吉台「龍護峰」の案内と説明がありました。

参加者18人

会員：原広美、井上禮子、高島拓生、関口興洋、丹下洽、丹下香代子、大内喜代子、縄田正芳、町元里香、中畑智子、準会員：藤原玲子、
支部友：松田幸恵、立石シマ子、宇都宮美智子、星出清美、里耕三郎、
ピジター：市村澄江、長谷妙子

◆◆ポレポレ会のご案内◆◆

野の花を愛で、史跡をめぐり、
のんびり山歩きを楽しみませんか
担当：丹下洽

- ・10月18日(木) 等覚寺：豊前六ヶ寺
【福岡県苅田町】
- ・11月22日(木) 競秀峰：紅葉狩
【中津市本耶馬溪町】
- ・1月17日(木) 白滝山：氷瀑
【下関市豊北町】
- ・2月28日(木) 高山：笠山の椿
【山口県萩市】
- ・3月28日(木) 尾の岳：高森田楽
【阿蘇市/日田市】

◆集合時間や行程についての問い合わせ先
丹下洽(携帯090-3732-8843)

◇◇月例山行のご案内◇◇

行事・山行時の申し込み方法の改正

参加者の申し込み漏れを防ぐため、今後の申し込み方法については、下記のとおりとします。

- ①参加希望者は、申込先の担当者へ、原則携帯電話のショートメールかパソコンメールで希望を送信する。
- ②できない場合は、直接担当者の携帯電話に連絡する。

11月の山行

【前回のご案内(予報)の日時に誤りがありましたので訂正、お詫びします】

●第34回宮崎ウエスタン祭のご案内

期日：平成30年11月3日(土)～4日(日)

宮崎ウエスタン祭：午後4時～

ウエスタン碑広場(三秀台)

交流会：午後6時～五カ所野菜集出荷場(一昨年のやり方に戻って、カッポ酒やキャンプファイヤーあり)

親睦会：午後9時～

五カ所公民館、同所で宿泊も(シュラフ持ち込み)

〒882-1415 宮崎県西臼杵郡高千穂町五カ所

TEL:0982-75-1950

※11月4日の記念登山については、北九州支部独自の計画を検討中

参加費：3,000円(予想)(宿泊、親睦会、朝食、弁当)

申込先：小林英世(aumode-create@docomo.ne.jp)or

SMS(090-4896-5884)電話不可

なお、登山計画書に盛り込むため、緊急連絡先の携帯電話番号及び続柄をご連絡ください。

申込締切り：10月10日(水)

*支部でとりまとめのうえ、申込および参加費を一括して振り込みます。

●英彦山 紅葉登山

日時：平成30年11月18日(日)午前8時30分

コース：裏英彦山

集合場所：英彦山温泉しゃくなげ荘先の駐車場

締め切り：10月26日(金曜日)

申込み：縄手修(携帯080-8733-2738)

●第3回山岳専科

リーダー：三浦利夫

テーマ：読図実地講習(平尾台)その他

雨天の場合机上講習(平尾公民館)

期日：11月11日(日)

集合：平尾公民館 駐車場

小倉南区平尾台2丁目6-1

(平尾台自然観察センター道路向かい北側)

時間：午前8時45分集合

携行品：通常登山装備一式・コンパス

筆記具・昼食

申込み：三浦利夫(携帯090-2850-6020)

締切り：10月21日(日)

会場費用：300円/人程度

12月の山行

●犬ヶ岳(1130.8m)干支の山歩き

リーダー：大内喜代子 サブリーダー：大谷恵美子

期日：12月16日(日)

集合：犬ヶ岳駐車場 午前8時30分

行程：うぐいす谷～犬ヶ岳～恐ヶ淵(中級)

コースタイム：約5時間30分 距離約8.5km

申込み：大内喜代子(携帯090-4695-5842)

締切り：11月26日(月)

平成31年1月の山行

●謎めくストーンサークル(猪群山)と

国東峯道トレイルT-4を歩こう

リーダー：藤原玲子

期日：平成31年1月6日(日)

集合時間：午前8時

集合場所：国東半島(大分県豊後高田市)

夷耶馬農村公園駐車場(下坊中)

行程：

猪群山常盤登山口～猪群山～ストーンサークル～

飯牟礼神社～中山仙境～夷耶馬農村公園駐車場～

猪群山常盤登山口解散

コースタイム：6時間・距離11km

申込み：藤原玲子(携帯090-8837-9138)

締切り：12月16日(日)

※夷耶馬農村公園駐車場～猪群山常盤登山口まで車をデポします(20分)、下山後は、夷谷温泉で入浴、着替えを持参すること。

●第3回指導員研修(平成30年度)

講師：園川陽造

日時：1月20日(日)

場所：玄海青年の家(若松区)

時間：午前9時～午後3時

行程：研修及び試験

携行品：一般山行装備及びクライミング装備、

筆記用具、昼食類

申込み：町元里香(携帯090-9572-6939)

締切り：12月30日(日)

●久住山(1786.6m)雪山登山

リーダー：三浦利夫

期日：1月27日(日)

集合：牧ノ戸登山口駐車場

時間：午前8時00分集合

行程：牧ノ戸登山口～久住分れ～久住本峰

～御池(氷上散歩)～中岳～久住別れ～牧ノ

戸登山口 ※コースタイム：約6時間30分、

携行品：冬山登山装備一式(アゲン他)

申込み：三浦利夫(携帯090-2850-6020)

締切り：1月6日(日)

※積雪の状況により変更する場合があります。

2月の山行

●冬山訓練(大山)

期日：2月9日(土)～11日(祝)

・マイクロバス利用予定(定員20人)

詳細は後日連絡します

参加人員により計画の変更もあります。

装備：冬山装備が必要です。

(ピッケル、アイゼン等)

締切り：12月10日

申込先 竹本正幸(携帯090-6739-9251)

●第4回山岳専科(平成30年度)

リーダー：三浦利夫

テーマ：レスキューその他

期日：2月17日(日)

集合：血倉山ケーブルカー山麓駅駐車場

時間：午前8時30分集合

(ビジターセンターまで徒歩で移動予定)

携行品：通常登山装備一式・筆記具・昼食

申込み：三浦利夫(携帯090-2850-6020)

締切り：1月27日(日)

3月の山行

●第2回代替山岳専科(平成30年度)

※7月8日豪雨で中止した第2回の代替開催

リーダー：三浦利夫

テーマ：山岳気象その他

期日：3月17日(日)

集合：血倉山ケーブルカー山麓駅駐車場

時間：午前8時30分集合

(ビジターセンターまで徒歩で移動予定)

携行品：通常登山装備一式・筆記具・昼食

申込み：三浦利夫(携帯090-2850-6020)

締切り：2月17日(日)

個人山行

●久住山系地質調査山行

——ブラタモリの登山のお誘い——

13533 磯野文雄

皆さんは、牧ノ戸峠から久住山に至る登山ルートが、8つの溶岩から成っていることをご存じでしょうか。扇が鼻や久住山は、溶岩ドームで、御池は火山湖です。

九州で最も人気のある久住山は、地質的にも珍しい地形をなしています。今回は、地質学者の横山秀司氏(支部会員)の案内で、ブラタモリの登山を行います。皆様のご参加をお待ちしています。

記

日時：10月13日(土)

午前9時～15時30分(解散予定)

集合場所：午前9時牧ノ戸峠駐車場

申し込み先

10月10日まで磯野文雄(TEL090-4989-5961)まで
その他

- ・詳細については磯野文雄にお問い合わせください。
- ・資料代100円(当日徴収)
- ・山ときどき温泉のちグルメ(B級)を計画(参加自由)



平成30年忘年の集い 北九州支部主催

期日：12月8日(土)午後5時～7時

場所：門司倶楽部(JR門司港駅から徒歩4分)

TEL093-331-2331

北九州市門司区清滝3丁目1-8

会費：6,000円

集合場所&時刻

忘年の集い 午後4時30分迄に会場(門司倶楽部)へ

参加申込み：11月25日(日)まで

受付窓口：榊俊一

電話：092-947-3208(携帯：090-8416-4194)

Eメール oskfssakaki@cameo.plala.or.jp

道順：門司港駅より右折し、棧橋通り(交差点)を右折

して国道3号線を300m進み、掖済会病院前の

信号を左折し、そのまま真っすぐに津300m

ほど行けば門司倶楽部(左側)に到着する

その他：支部主催の山行は、当日行いませんので各自会場にお越しください

平成30年度日本山岳会 「年次晩餐会」のご案内

通常会員と準会員が対象です

期日：平成30年12月1日(土)～2日(日)

場所：新宿京王プラザホテル

案内状：対象者には10月の「山」に同封されます。

参加希望者：個人あての案内ハガキで参加申込みを行い、会費を振り込みます

その他：参加希望者は、人数把握のため事務局にもご連絡ください

連絡先：竹本正幸(携帯090-6739-9251)

ご協力ください！！ 英彦山山頂トイレ掃除の支部当番

平成30年10月から平成31年3月までの 計画予定

英彦山山頂トイレの清掃日は以下の予定です。
会員皆様のご参加協力をお願いします。

期日：10/10(水)・11/21(水)・

平成31年 1/3(木)・2/13(水)・3/27(水)

※参加できる方は、3週間前に自然保護担当奥田スマ子(携帯：080-8589-0903)までお申し込みください。

当日、英彦山別所駐車場に午前9時集合し、山頂へ向かいます。

◆◆お知らせ◆◆

●モンベルのクラブ会員を 希望される方へ

今年4月27日に、北九州市小倉北区井筒屋 紫江'S(しこうず)1階にモンベル小倉店がオープンしました。

登山用品を購入するのに、困っていた人には待望のお店でしょう。

モンベルのクラブ会員になれば、買い物ごとに1年目は5ポイントが加算されます。

しかし、このたび、グループ・サポートカードができ、個人への5ポイントのほか、団体へ別に3ポイント加算されるカードができました。

団体会員10人以上で申込ができるようです。

北九州支部でも、会の役に立つ団体カード、グループ・メンバーズカードを作りたいと思います。

詳しくは、「mont・bell グループ・サポートカード」で検索してみてください。

年会費は、個人会員と同じ1人1,500円(税込み)で、継続年数が増えると加算ポイントも上がっていきます(最大9%まで)。すでに、ゴールドカード以上を持っておられる方は、自分へのポイントは5%に減り、山岳会の方へ3ポイント加算されることとなります。加入希望者はお世話させていただきます。

◆連絡先：小林英世(携帯090-4896-5884)

会 務 報 告

●平成30年7月定例役員会議事録

日時：平成30年7月4日(水)18時より

場所：当支部ルーム(毎日会館 1F)

出席者：関口興洋、竹本正幸、丹下洽、榊俊一、
丹下香代子、縄田正芳、縄手修、森義雄、
奥田スマ子、塚本久嘉、小林英世、
馬場基介、大内喜代子、清家幸三

欠席者：日向祥剛、磯野文雄、池田智彦

議題

(1) 会員の異動状況(5月1日～)

榊総務委員長より報告

①新入会員

- ・通常会員：(1人)横山秀司(本部に申請中)、
- ・準会員：太郎良嘉親、
- ・支部友：(1人)塩屋夕子

②退会者：

- ・通常会員：
 - ・支部友：太郎良嘉親(準会員へ)
- 通常会員：71人、準会員：3人、支部友：45人、
会友：4人 合計：123人

(2) 会費納付状況 未納者

通常会員：11人/71人、支部友：2人/45人、
準会員1人/3人

(3) 山行・行事報告

- ・5月13日(日)天主山(前泊)14人
- ・5月18日(金)さいわい幼稚園(年少組)ハイキング
サポート8人
- ・5月20日(日)第1回指導員研修(総会)
玄海青年の家にて8人
- ・5月25日(金)さいわい幼稚園(年長組)ハイキング
サポート7人
- ・5月26日(土)～27日(日)英彦山山開き21人
- ・6月2日～3日坊がつるテント泊12人
- ・6月10日(日)平尾台「岩登り教室」20人
- ・6月10日(日)
平尾台の花散策(森林保全巡視活動)7人

※本件は森林保全巡視の意味合いに欠けているから見直しを要する。

- ・7月8日(日)第2回山岳専科23人

(4) 山行・行事計画

- ・7月14日～16日三里河原テント泊8人(2泊3日)
- ・7月21日～22日全国支部懇談会(北海道)11人
- ・8月5日古処山
- ・8月11日山の日
- ・8月21日～26日北アルプス(常念岳～蝶ヶ岳)8人

- ・8月25日～26日沢登り(宮崎甘茶谷)
- ・9月2日(日)岩登り(陶ヶ岳)
- ・9月9日(日)第2回指導員研修
- ・9月20日～24日南アルプス
(甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳)7人
- ・9月29日(土)～30日(日)
三倉ヶ岳(広島支部と合流)

その他報告

①ルーム丹下香代子委員長よりルームへの参加を各役員に要請。

②塚本山行委員長より近日中に山行委員会を開催する。

(5) ポレポレの会

- ・5月24日(木)合頭山・獺師山18人
- ・6月7日(木)星生山9人
- ・7月19日(木)犬鳴山
- ・8月30日(木)姫島・矢筈岳
- ・9月27日(木)龍護峰

(6) 各委員会報告事項

・日本山岳会の平成30年通常総会報告(関口支部長)※別紙詳細報告書あり。

審議事項

1. 広島支部との交流会について(小林交流委員長)※別紙詳細の計画案あり。

2. 新入会員の年会費を4期に分けて割引をしては(支部報発行月で分ける)

支部友：1/4期=1,250円(支部内規に追加)通常会員、準会員は割引なし

3. 「久住地質研究山行」11月10日(土)に実施予定。(磯野副支部長)

講師：横山秀司教授 牧ノ戸峠～久住山往復

※本件は急な案件であり、再検討する。

4. 広谷湿原観察会を9月23日(日)に実施。(丹下役員)

計画書の作成

5. 年次晩餐会展示出展について本部より依頼がありました。

「榎有恒碑前祭」を全国の支部の方や新しい会員の方に、紹介してもらいたい。

碑前祭の様子や榎さんの功績など歴史的な観点から企画していただませんか。

ボードでの写真展示、および関係書籍などの展示。※関口支部長、伊藤顧問、丹下役員を中心に進めている。

6. 「山の日」行事推進状況について

丹下役員が門司区役所、毎日新聞社への後援依頼を含めて活動している状況で、担当の池田役員と連絡を取って、実行委員会を早く立ち上げる。

7. 福岡夏山フェスタについて(6月23日～24日)の報告。榊総務委員長より報告あり、2日間にわたり、運営面での課題は多いが盛況でした。
8. 7月8日：「山のトイレ・環境を考える福岡協議会」の本年度総会
講演会：「アラスカ 垂直と水平の旅」栗秋正寿氏
9. 小倉サロンの日程変更
「偶数月第一木曜日」17時～18時(ルーム)18時～20時(懇親会：場所はその都度決定)
今回からは小倉サロンは清家が担当をする。参加者を増やしていくことを念頭に従来のやり方を変えて女性、及び若い会員が参加できる企画を進めていく。8月はルームにて実施すること。
10. 支部ホームページについて
これからの時代に向けて必要なことの認識の上でホームページ立ち上げの実行委員会(塚本山行委員長)を軸に進めていく。
11. その他
(1)平成30年度北九州支部の組織図
添付組織表あり。
(2)支部報発行について
次回定例役員会 9月5日(水)予定

●平成30年9月定例役員会議事録

日時：平成30年9月5日(水)午後6時より
場所：当支部ルーム(毎日会館 1F)
出席者：関口興洋、磯野文雄、馬場基介、竹本正幸、丹下洽、榊俊一、丹下香代子、大内喜代子、池田智彦、縄田正芳、森義雄、奥田スマ子、塚本久嘉、小林英世
欠席者：日向祥剛、縄手修、清家幸三

議題

- (1) 会員の異動状況 (7月1日～) 榊役員報告
- ①新入会員
・通常会員：横山秀司、準会員：田中清貴(申請中)
・支部友：木戸恵理
- ②退会者：支部友：横山秀司(通常会員へ)
- ③通常会員：71人、準会員：3人、支部友：45人、会友：4人、合計：123人
- (2) 会費納付状況 未納者
通常会員：5人/70人、支部友：9人/45人、準会員1人/3人
- (3) 山行・行事報告
・7月14日(土)～16日(月)三里河原テント泊8人
・7月21日(土)～22日(日) 全国支部懇談会(北海道)11人
・8月5日(日)古処山4人(猛暑日は避けた方が良い)

- ・8月11日(祝「山の日」)81人
 - ・8月21日(火)～26日(日)北アルプス(常念岳～蝶ヶ岳)台風のため中止
 - ・8月25日(土)～26日(日)宮崎甘茶谷沢登り参加者が少ないため中止
 - ・8月28日(火)家裁委託登山打合わせ 裁判所に支援団体として登録した。
 - ・8月29日(水)英彦山トイレ清掃6人
 - ・8月29日(水)山行委員会 14人
 - ・9月2日(日)岩登り(陶ヶ岳)15人
最近参加者が多いがリードできる人が少ない。養成する必要がある。
- (4) 山行・行事計画
- ・9月8日(土)～9日(日)第2回指導員研修(玄海青年の家)
 - ・9月20日(木)～23日(日)南アルプス(甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳)7人
 - ・9月23日(日)平尾台広谷湿原観察会
 - ・9月29日(土)～30日(日)三倉ヶ岳(広島支部と合流)登山4人、岩登り5人
 - ・9月29日(土)～30日(日)支部合同会議(東京)関口支部長、磯野副支部長出席
- (5) ポレポレの会
- ・7月19日(木)犬鳴山15人
 - ・8月30日(木)姫島(天測点)18人とにかく暑い。真夏は避けた方が良い。
 - ・9月27日(木)龍護峰、秋吉台)
 - ・10月18日(木)等覚寺
- (6) 各委員会報告事項
- ①山行委員会報告(塚本山行委員長)
- ・8月29日山行委員会実施14人出席
 - ・10月27日～28日開聞岳バスハイクは交流登山と重なるため中止。
 - ・11月18日の国東ロングトレイルは、中止して英彦山の紅葉登山に変更(担当：縄手)
 - ・次回の会議まで来年度のたたき台を作る。

審議事項

- (1) 第34回全国支部懇(北海道支部主催)報告(竹本事務局長)
- (2) 「山の日記念親子登山(風師山)」の報告と総括(池田実行委員長)
- 一般：45人、会員：36人
- ・猛暑日の家族登山は、暑いため子供の参加が少ない。会員も1名熱中症になりかけた。
 - ・家族登山の日程を変更してはどうか。ペンディング事項(来年は9月又は10月)
 - ・今回も地元の人が草刈りや伐採で頑張ってくれた。(菱田さん、小田さん)
 - ・実行委員会が機能しなかった。

- ・会計は、収入：16,200円 支出：18,472円
- (3) 登山教室の実施に関するアンケート(本部9月9日までに提出)(事務局)
- (4) 9月23日(日)広谷湿原観察会について(18時ビジターセンター集合)(丹下役員)
- (5) 10月21日(日)の「榎有恒碑前祭」に関する記念行事の概要(別紙)(関口支部長)
- (6) 10月27日(土)~28日(日)、広島支部との交流会について(小林交流委員長)
 - ・北九州支部16人、広島支部15人
- (7) 家裁委託登山について(11月1日実施)(小林交流委員長)
- (8) 宮崎ウエストン祭について
 - 14人(記念登山を検討中)(小林交流委員長)
- (9) 九州シカ広域一斉捕獲の実施について(3月については支部報に掲載)(磯野副支部長)
- (10) 平成30年度支部運営交付金について(136,000円+28000円)(縄田財政委員長)
 - ・正会員：5人 準会員：2人の獲得報奨金(4,000円/人)
- (11) 「忘年の集い」について(榊総務委員長)
 - ・12月8日(土)門司倶楽部に決定
 - 記念登山は行わない。
- (12) 年次晩餐会展示出展について(碑前祭の様子や榎さんの功績など歴史的な観点から企画)関口支部長、伊藤顧問で作成中
- (13) 10月13日(土)「久住地質研究山行」は個人山行として実施する。(磯野副支部長)
 - 講師：横山秀司九州産業大学教授
 - 牧ノ戸峠~久住山往復 集合：牧ノ戸9:00
- (14) 10月18日「毎日西部会館交流会」⇒参加希望者は丹下まで
- (15) 高千穂峰携帯トイレ利用状況視察山行について(10月27日~28日)(磯野副支部長)
- (16) 山の手学院幼稚園サポートについて⇒その後連絡なし(丹下渉外部長)
- (17) 支部報発行について(9月1日発行予定)(森広報委員長)
- (18) モンベルグループサポート会員について(小林交流委員長)
 - ※次回定例役員会 11月7日(水)予定

・***会員の異動***

◆通常会員

・新入会員(平成30年7月)

- 1 16382 横山秀司 宗像市三郎丸 70才(20180731)支部友より

◆支部友

・退会者(平成30年7月)

- 1 北九496 横山秀司(20180731)本会員へ

・会員数(7/未現在)

- 123名：通常会員71人、支部友45人、準会員3人、会友4人

ルーム便り(7月~9月)

利用日：

- 6月22日(金)月例山行三里河原(7人)
- 6月27日(水)版画同好会(4人)
- 7月2日(月)図書整理(4人)
- 7月4日(水)定例役員会(12人)
- 7月7日(土)支部報発送準備(1人)
- 7月9日(月)山の日イベント打ち合わせ(4人)
- 7月10日(火)山行打ち合わせ(6人)
- 7月11日(水)版画同好会(6人)
- 7月11日(水)支部報発送(10人)
- 7月17日(火)山の日打ち合わせ(11人)
- 7月30日(月)版画展打ち合わせ(4人)
- 7月31日(火)家裁打ち合わせ(4人)
- 8月2日(木)サロン(13人)
- 8月3日(月)特別山行打ち合わせ(5人)
- 8月8日(水)山の日打ち合わせ(2人)
- 8月9日(木)山の日打ち合わせ(3人)
- 8月29日(水)山行委員会(10人)
- 9月5日(水)定例役員会(12人)
- 9月6日(木)支部報資料整理(1人)
- 6月22日(金)支部報資料整理(1人)

◆支部のルームは、会員の方であればご利用できます。ご利用希望は、事務局までお問い合わせください。

サロンのお知らせ

小倉サロン

申込み：清家幸三
(携帯：090-8664-4411)

【開催月が変更となります】

支部役員会が奇数月に行われていますので、情報交換の場として偶数月に行います。

開催日：偶数月の第一木曜日

◆17時～18時 支部ルームにて

- ①ルームにてビデオ観賞
- ②個人山行等の情報交換

◆18時～20時 懇親会(場所はその都度決定)

- ①・②どちらかの参加でも可能です。

12月6日(木)午後5時～

場所：毎日会館山岳会ルーム

内容 ・ビデオ鑑賞 「できるテント泊術」
風速22mでのテント設営(山と渓谷社)
・感想と個人山行等の情報交換
・懇親会 18時～20時 予算1000円以内

博多サロン

申込み：赤瀬榮吉(携帯：090-7475-9748 or x-l)

とき：11月8日(木)午後6時30分から

場所：丸海屋(マルイ)博多駅築紫口店

☎092-432-4455

会費：3,500円(食べ飲み放題)

締切り：11月1日(木)

居酒屋「コール天」

●場所：小倉北区魚町1-2-23 桧山ビル2F

TEL:093-522-0565

JR鹿児島本線 小倉駅南口から

※中央銀天街方面に向かい徒歩5分

※北九州支部は小倉サロンでお世話になっています



歌声喫茶を楽しむ会

毎月10日

時間 19時～

会費 2,000円

スナック

飲物・お菓子・
果物等準備して
おります!

ぎんなん
銀杏

TEL.093-541-5516

童謡・懐メロ・寮歌・校歌・軍歌・ラジオ歌謡・山の歌

〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町1-2-2(坪根ビル)